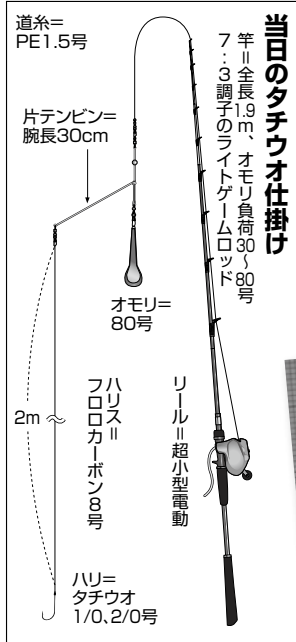




Report 3 タチウオ



▲エサのサバは真っすぐていねいに付ける

Tackle Guide

使用オモリが80号なので竿はやや胴がシャキッとした竿のほうがマッチする。タナは50メートル前後が多いので小型電動リールがおすすめ。ハリは小型メインなら1/0、良型が交じるなら2/0と使い分けよう。テンヤの場合はオモリ50号使用。

ンヤ組はアタリもないと苦戦の様子。
8時を過ぎると東京湾中のタチウオ船が集結し、走水沖と大津沖に2つの大船団が形成された。
船中ではポツリ、ポツリだが指幅3〜4本サイズメインにたまに5本サイズも。ハリは小型に合わせて1/0サイズを使用している人が多かったようだが、飲まれ切れも結構あったよう。
ある程度撮影を終えた9時

過ぎに筆者も参戦。タチウオ釣りにするのは数年ぶり。オースドックスなハリス8号1本バリ仕掛けで開始した。
ムズ面白展開
海面から50〜55メートル周辺が当たりタナだったようで、ややゆっくりめの誘いと待ちを入れて探っていくとズーンと竿先がモタれる。そのまま誘い上げていってもガツガツッこない。だけど、モタレのような重量感はある。ええいままよ、と竿を持ち上げるように合わせると、重量感が

船中ではうまく食わせられると大型が出ていたが、途中で「あー！」と声飛び交いバラシも多発。そして11時くらいになるとアタ



▲ラストはテンヤで大型が連発

伝わってくる。
ハリ掛かりしたものの、大した抵抗を見せずにすんなり上がってきたのは、指幅4本クラスのまずまずのサイズ。1投目になんだかよく分からないままに釣れちゃった。ハリはしっかりと口の中にあって、居食いして動かなかったよう。ハリスのチモト部分はかなり傷付いていて危なかった。すぐに結び直して再開。
そこからはタナを探っていくアタリがあれば、そのまま誘い上げていく、その場で誘い続ける、など色んな手を使って食い込ませようとするのだけど、これがなかなか難しい。1回だけ「コッッ」とアタリがあって、その後が続かないパターンがほとんど。モタレで合わせてみて掛かったはいいが、途中でバレるなどなかなかイメー

釣果は2〜7本と数は物足りなかつたが、良型主体で内容は悪くなかつた。筆者は最後に1本追加して4本だったが、ムズ面白くて充実感があった。
毎日、状況が目まぐるしく変わっているようだが魚影は濃い様子。夏シーズン本番の今、おすすめの釣りですよ。



▲テンヤは右舷トモから並んだ

船宿information
三浦半島新安浦港
義和丸
☎046-825-0078
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ショートタチウオ乗合一人8000円(サバエサ、氷付き)
▶備考=予約乗合、7時15分出船。
電話で京急堀の内駅送迎



村上義人船長(左)と村上優輝船長



▲前日は小型メインだったそうだがこの日は良型が多かった

「これ全部タチウオだよ」とのこと。期待は十分。しかし、確実に魚はいるはずなのだが、だれにもアタリはない。
5分ほど経過したところで、連チャン釣行の川越さんの竿が大きくしなった。竿のたつき具合から大型の予感。上がってきたのはメーター級の大型。そしてその後、なぜか右

リが止まってしまった。走水沖から大津沖へと移動するもしばらくは沈黙が続く。「昨日もこの時間は食いが止まったよ。最後にまた食ったけどね」と船長。
そこは前日と同じだったようではしばらく沈黙が続く。しかし正午前から上げ潮が効き出したのか、テンヤ組がアタリ始める。大ドモの秋山さんが20センチクラスを2本上げると、ほかのテンヤ組の皆さんも良型をゲットする。そして大型バラシを多発していたミヨシの常連さんがメータークラスを釣り上げたところで終了の合図。

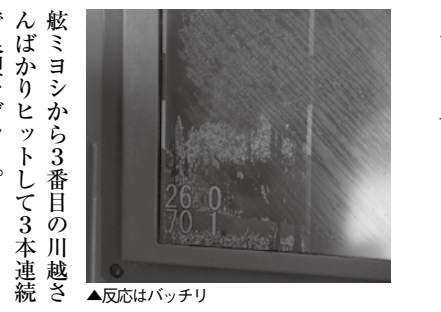


▲誘いはゆっくりめ、待ちは長めがよかった模様

東京湾のタチウオが夏の絶好期に突入している。今シーズンは釣れ始めから走水沖をメインに狙い、大中小交じりでまずまず安定した釣果が続いている。
メーターオーバーのドラゴン級がテンピンでもテンヤでも釣れていると聞き、7月最後の日曜日、30日に三浦半島新安浦港の義和丸に出かけた。

休日とあって込み合うことを予測して早めに到着。船上で準備をする村上義人船長にあいさつして状況を聞いてみると、前日は朝イチからアタリが多かつたものの小型メインだったそう。途中は中だるみがあつてラストにもうひと盛り上がりあつたとのこと。その前の日は大型が多かつたそう。毎日同じ場所をやっているのに釣れ方は全く違う」という。
先客は2人で、空いていた左舷ミヨシに入れてもらう。まだ6時を少し過ぎたばかりだが、すでに気温は30度を超えていた模様。沖は多少は風があるようでホッとす。

数人の常連さんは前日からの連チャンで、藤沢の川越さんは「昨日は撃沈」だったと準備から気合が入っていた。
村上義人船長の操船で走水沖を目指す。助手には甥の村上優輝さんが乗り込み、お客さんをサポート。15分ほどで走水沖に到着。いくらか南風が吹いているため思ったよりは快適だ。
「水深65メートル。タナは50から60メートルくらい探ってみて」とスタートの合図。魚探を見せてもらったら10メートル以上の広い幅で真っ赤な反応があつた。



▲反応はバッチリ

夏休み限定ペア割引実施中!

知得! Tips and Tricks

義和丸では8月31日まで期間限定で夏休みペア割引を実施。男性ペアは通常1万6000円が1万4000円、男女ペア、親子ペア(中学生以下)は通常1万4000円が1万3000円に。この機会にお得に釣りを楽しもう。

三浦半島新安浦港発 ↓ 走水 & 大津沖

夏シーズン真っ盛りで大人気

ドラゴン級交じりで期待大!

本誌編集部 近藤加津哉 Katsuya Kondo